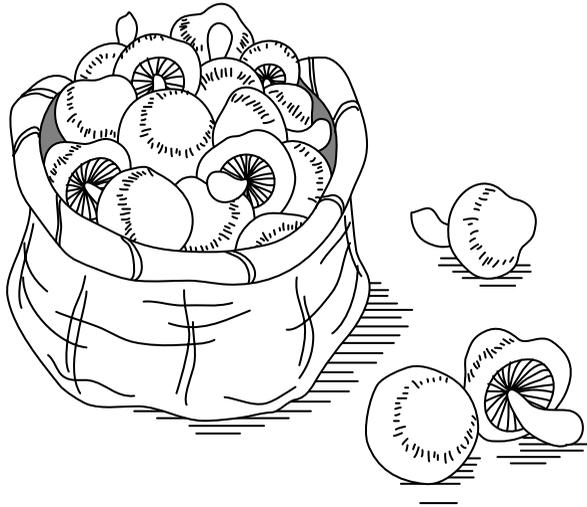


## ほうしやせい おせん 放射性セシウムで汚染した キノコを食べる

ザボリエ村、ここはロシア最大の汚染地の厳戒管理区域です。ブリャンスク州、この暮らしは年間線量でレベルDです。この村で、自らの意思で暮らしている人たちに会いました。ここでもまた、写真を撮ったり、いろいろな話をしました。写真を撮るなど何年ぶりか、といわれました。写真屋は村にはありません。写真をあげたら喜ばれまして、おみやげにキノコを籠かごいっぱいにもらいました。

この土地の汚染おせんというのはどうなっているかというのと、放射性物質ほうしやせいぶつしつの拡散中に、雨が降ったようです。放射性セシウムほうしやせいというのは、これは地面に吸着します。深さ10cmくらいの範囲はんいに90%のものが吸着してしまう。深い地中にはほとんどないんですね。

キノコは根がありませんね。地面に、菌糸きんしでシュッと育つ。キノコのなかの汚染おせんというのは地面の汚染おせんとまったく同じ密度です。ところがリンゴのように地中に根を張るものは養分、水分を地中深くからとるので、だからできたリンゴの実おせんは汚染していません。ということが、私はわかっていたんですね。



だからリンゴなどは食べました。持ち主がいらないような畑がいっぱいあるんです。調査中に、コンビニエンスストアもありませんから、リンゴなどをとって食べたわけですね。そういうこと知っていましたから、ただキノコだけは食べなかったんです。

しかし、キノコをおみやげにどっさりもらったんです。もらって、食べないわけにはいかないので、じゃあ、その晩ロシアの科学者たちと調理して食べようじゃないか、となったんですね。おいしそうなキノコなんです。とりあえず計測すると確かに放射性セシウムほうしやせいがしっかり入っている。放射能ほうしやのうの単位はベクレルというんですが、1個あたり1000ベクレルありました。私も何個か食べました。私は

好奇心こうきしんいっぱいですから。ただし、これによる被曝ひばくはたいしたことはないというのは計算上わかっていました。現地の村人は10年以上も食べ続けているのです。それで、私は実際に食べたのです。